

クワトロ・ピアチェーリ 特別演奏会

明るい未来を願って

©尾形正茂



大谷康子

©明石一矢



ゲスト/木野雅之

PROGRAM

第1部 今この時に

〈シュルホフ〉

弦楽四重奏曲より

〈ショスタコーヴィチ〉

「五つの小品」

弦楽四重奏第8番 op.110

「ファシズムと戦争の犠牲者の思い出に」



荻田雅治

第2部 未来へ

〈スコリック〉

メロディー

〈ドヴォルザーク〉

ピアノ五重奏曲第2番 op.81



百武由紀



ピアノ
佐藤卓史

2022 12・18 [日]

開演14:00 開場13:15

市川市文化会館 小ホール

全席指定 一般 3,500円 U25 1,500円

プレイガイド情報 ※ローズメンバーズ割引の取り扱いが*印のみとなります。

[9月23日発売初日のみ] 市川市文化会館

□ *市川市文化会館 特別電話 TEL: 047-393-7111

※発売日初日は特別電話もしくはWEBのみの受付<店頭販売はございません>

[9月23日以降]

□ *市川市文化会館 TEL: 047-379-5111

□ *行徳文化ホールI&I TEL: 047-701-3011

□ *芳澤ガーデンギャラリー TEL: 047-374-7687

□ *財団公式HP <https://www.tekona.net/bunkakaikan/>

□ 電子チケットサービスteket 右記二次元コードよりご購入下さい。

□ イープラス <https://eplus.jp>

□ チケットぴあ <https://t.pia.jp> [Pコード: 225-436]



チケット
一般発売日

2022年 9月23日(金・祝) 10:00~

本公演は「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」に従い開催いたします。皆様に安心してご鑑賞いただけるよう、館内ではマスクの着用などの感染症対策にご協力をお願いいたします。

市川市文化会館



てこなホール
市民から選ばれた愛称です。

主催・お問合せ：公益財団法人市川市文化振興財団 TEL: 047-379-5111 <https://www.tekona.net/>



永福 康子

大谷 康子 YASUKO OHTANI

ヴァイオリン

2022年にデビュー47周年を迎え、これまでにリサイタルはもとより、N響、モスクワ・フィル、スロヴァキアフィル等、国内外の著名なオーケストラと多数共演。キエフ国立フィルとは2017年以降毎年招聘され、2022年9月にも共演を予定。また、2019年5月に実力派ピアニスト、イタマール・ゴランと全国ツアー(12都市)を開催し、好評を博す。著書に「ヴァイオリニスト 今日も走る!」(KADOKAWA)がある。CDも多数リリース。BSテレ東(毎週土曜朝8時)「おんがく交差点」では司会・演奏を務める。「クワトロ・ピアチェーリ」で文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京藝術大学客員教授。(公財)練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。高知県観光特使。(公財)日本交響楽振興財団理事。(公社)日本演奏連盟理事。使用楽器はピエトロ・ゲルネリ(1708年製)。

オフィシャル・ホームページ: <https://www.yasukohtani.com>

【公式YouTube】「大谷康子のやっこチャンネル」演奏動画続々公開中!



百武 由紀 YUKI HYAKUTAKE

ヴィオラ

東京藝術大学付属高校を経て、同大学卒業、同大学院修了。井上武雄、浅妻文樹、ウィリアム・プリムローズ、セルジュ・コロ各氏に師事。1999年まで東京都交響楽団に在籍し首席奏者をつとめた。邦人作品、現代曲の初演も多数手掛けており1999年日本音楽コンクール作曲部門の演奏に対して、審査員特別賞を受賞。2005年より大谷康子、齋藤真知亜、荻田雅治氏とカルテット「クワトロ・ピアチェーリ」を結成。ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全曲演奏と国内外の現代作品の積極的紹介からなる定期演奏会は高い評価を得る。2010年第65回文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞。「東京シンフォニエッタ」メンバー。2010年第10回佐治敬三賞受賞。室内楽、ソロ、オーケストラと幅広く活躍。『どのようなアンサンブルにあっても、常に音楽を活性化出来る類い稀なヴィオラ奏者』との評価を得る。現在 東京音楽大学客員教授、愛知県立芸術大学名誉教授。



荻田 雅治 MASAHARU KANDA

チェロ

桐朋学園大学で井上頼豊氏に師事。1973年第42回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位。82~90年東京都交響楽団首席チェロ奏者をつとめる。82年よりニューアーツ弦楽四重奏団に参加し、団として、92年第4回飛騨古川音楽大賞奨励賞、94年度文化庁芸術祭賞、94年度第13回中島健蔵音楽賞を受賞した。個人としても92年度第11回中島健蔵音楽賞受賞。国内の主要現代音楽祭に常時出演しており、独奏者としての評価も高い。2005年秋、弦楽四重奏団クワトロ・ピアチェーリを結成(第1ヴァイオリン=大谷康子、第2ヴァイオリン=齋藤真知亜、ヴィオラ=百武由紀、チェロ=荻田雅治)。2006年11月からスタートした定期演奏会で、ショスタコーヴィチの全弦楽四重奏を演奏するプロジェクトを開催している。現在、東京音楽大学教授、桐朋学園大学及び東京藝術大学非常勤講師。



木野 雅之

木野 雅之 MASAYUKI KINO

ヴァイオリン

桐朋学園を経て、1982年ロンドンのギルドホール音楽院に学び、名匠イフラ・ニーマン教授に師事する。音楽院卒業後、ナタン・ミルシュタイン、ルッジエーロ・リッチ、イヴリー・ギトリス等3人の巨匠に師事し研鑽を積む。ソリストとしてロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン交響楽団、ポーランド国立放送交響楽団、モスクワ放送交響楽団、ロンドン・モーツァルト管弦楽団等と共演。また、サンレモ、オールドバラなど国際音楽祭への参加も多く、海外での活躍も盛んに行われている。名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターを経て、93年4月より日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターに、02年7月よりソロ・コンサートマスターに就任。東京音楽大学教授、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学講師、インドネシアパダンパンジャン国立芸術院客員教授として後進の指導にあたっている。JASTA(一般社団法人日本弦楽指導者協会)顧問。



佐藤 卓史 TAKASHI SATO

ピアノ

高校在学中、日本音楽コンクールで優勝し一躍注目を浴びる。東京藝術大学を首席で卒業後渡欧、独逸で研鑽を積む。エリザベート王妃国際コンクール入賞、カントゥ国際コンクール第1位など受賞多数。とりわけ2007年のシューベルト国際コンクールでの優勝とその後の世界各地での演奏活動を通して“現代随一のシューベルト弾き”の評価を確立した。2014年よりライフワーク「佐藤卓史シューベルトツィクルス」を開始、未完作品の補筆を含む前人未踏のシューベルトピアノ曲全曲演奏に取り組んでいる。指揮者ジョナサン・ノットの指名により同氏の東京交響楽団音楽監督就任披露演奏会のソリストを務めたのをはじめ、N響、日本フィル、大阪響、広島響等と共演。CD録音も数多い。近年は作編曲の分野でも活動、2021年に初のオリジナル作品集CD「《ラクリメ》変奏曲~佐藤卓史:2台ピアノ作編曲集」(ライヴノーツ)を発表。

公式サイト www.takashi-sato.jp